

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第1回 川西市上下水道事業経営審議会 部会		
事務局 (担当課)		上下水道局 経営企画課		
開催日時		平成30年5月31日(木)午後6時30分～午後8時40分		
開催場所		川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	藤井 秀樹、木本 圭一、井上 定子、宮本 幸平		
	事務局	川西市上下水道事業管理者、上下水道局長、上下水道副局長、上下水道局参事兼経営企画課長、水道技術課長、給排水設備課長、浄水課長、経営企画課主幹、経営企画課主幹、水道技術課主幹、経営企画課課長補佐、経営企画課主任		
傍聴の可否予定		可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1. 開会 2. 部会長の選出 3. 部会長挨拶 4. 部会長職務代理者の選出 5. 会議公開制度について 6. 議事 川西市水道ビジョン後期(平成25年度～平成30年度)の 経営及び事業の検証について 成行財務シミュレーションについて 次期開催日時について 7. 閉会		

<p>会議結果</p>	<p>別紙審議経過のとおり</p>
-------------	-------------------

審 議 経 過

事務局(開会)

会長(部会長の選出)

部会長(あいさつ)

部会長(部会長職務代理者の選出)

事務局(会議公開制度について)

【1.川西市水道ビジョン後期(2013(平成 25)年度～2018(平成 30 年度))の経営及び事業の
検証について】

事務局(川西市水道ビジョン後期(2013(平成 25)年度～2018(平成 30 年度))の経営及び事
業の検証について説明)

< 部会長 >

ただ今の説明に対してご質問、ご意見等はございませんか。

< 委員 >

簡単な質問を一つして、それに関連したコメントをいたします。資料3は、これまでの取り組
みの検証をまとめられたものということです。この表は川西市独自のものですか、それとも厚
労省が定めた様式を川西市で活用しているのでしょうか。

< 事務局 >

川西市独自のものです。

< 委員 >

達成状況と書かれた欄を見ますと、「継続」と記入されていたり、「H28 完了」と記入されてい
たりするのですが、これは「達成状況」というより、「取組状況」を表すものになっているように思
います。「達成状況」というのは、事前に与えられた達成目標が、事後の取組みによってどれだ
け達成されたかをいうものです。数値目標であれば、それが何%達成されたかが、達成状況
になります。数値で表せない目標の場合は、達成状況を自己評価して A, B, C 等で記入する
といった工夫が必要です。たとえば国立大学では、教育・研究の様々な取組みを項目ごとに、
「期待された水準を上回る」、「期待された水準にある」、「期待された水準を下回る」の 3 段階
で自己評価し、その根拠書類等を付記します。達成状況のこうした評価がなぜ必要かという
と、それが反省材料を提供し、次年度において取組みを改善するための指針になるからです。

達成状況の評価に関連して、もう 1 点付け加えておくと、評価においては取組みのアウトプッ
ト(活動量)とアウトカム(成果)を区別する必要があります。一例として、広報及び広聴活動の
一環として市内の小学生を対象に水道施設の見学会を開催したというケースを取り上げてみ
ます。見学会は水道局がその気になればいつでも開催できるわけで、仮に参加者がゼロでも
開催の事実は残ります。これがアウトプットです。しかし参加者がゼロの見学会を何回開催し
ても効果はゼロです。多くの小学生やその家族の方々に見学会に参加して頂き、水道事業の

現状やあるべき姿について理解を深めてもらう。これが見学会の目標であり、その達成状況がアウトカムになります。したがって、この場合、アウトカムを評価するためには、目標人数に対して何%の参加者があったかだけでなく、参加者の理解がどれだけ深まったかもチェックする必要があります。そのようなチェックを行うためには、参加者アンケートが欠かせないものとなります。アウトプットとアウトカムを区別せず、アウトプットだけを追求すると、見学会を開催することが自己目的化し、本末転倒の取組みとなりますので、注意が必要です。

< 部会長 >

有難うございます。事務局いかがでしょうか。2つの検証の示し方についてご示唆がありましたし、事務局の方でもこの検証の部分の深掘りをどのように考えておられるのか聞かせていただくのもいいかなと思います。

< 事務局 >

この表を作るときに、まさに今委員が言われたような話がありました。例えば計画にある文字があって、やっていったら達成になります。しかし達成したからと言って終わりかという引き続きやります。あえて言うならば、数値目標の分だけは、先ほど委員の言ってくださったように達成か未達成かはよく分かりますが、単にモノが書いてあるとかそういうものについては具体的にどういう形で検証するかは、現水道ビジョンではないんです。それを踏まえて今回ある程度前回の市民さんへの現水道ビジョンのお話がありましたので、この分を踏まえて今どういう状況を一つの表にさせていただいて、今回ご説明させていただいてもいいのですが、今指摘されましたように、今現在では数値を取りようがない部分がございますので、次なるビジョンには今先生の言われた部分で出来るだけ後々施策の評価ができるものを採用するようにそこはまたお知恵をお借しいただきながら進めていきたいと思っております。

< 部会長 >

ビジョンには確かにすべて目標数値はありませんので、数値目標がない分について、やっていることの検証はどのように表現されるご予定でしょうか。継続だと何をどのようにやったかは不明確になる部分です。その辺りは、工夫が必要になると思いますが、何か事務局でお考えがあったらお示しください。例えば資料1の方では、「文書で記載」とあるのでこのあたりの方法はいかがでしょうか。

< 事務局 >

そこは具体的に次の段階で第2回審議会までに何らかの形でその部分について達成状況について具体的な文言でご説明できるように資料は作ろうと思います。

< 部会長 >

市民委員の方々に施策の検証を示したときに、これはここまでやったというのがあった方がやはり説明としては分かりやすく丁寧かなと思いますので、委員、出た意見・回答でよろしいでしょうか。

< 委員 >

まとめてくださり有難うございます。検証は検証することが目的ではなく、検証の結果を次に繋げていくことが大切です。次年度に使いやすいような、次年度の取組みを考えるときに役に立つような情報にしていいただければありがたいと思います。

もう一つ検証の仕方です。工夫していただく必要がある点を指摘します。それは例えば、施策目標の(3)運営管理の効率化です。3 - 3です。民間的経営手法についても取組みをしておられて、例えば24時間365日受付するための待機業務について、そういった取組みをしておられる。こういった取組みの評価については、留意して頂きたいポイントがあります。というのは、24時間365日緊急対応の体制を取っておられますが、このような体制は実際には発動させないことが、じつは好ましいということです。通常の業務ですと、正常な状態では、業務量と成績が正比例の関係になります。少なくとも反比例の関係になることはありません。ところが、公的部門では、業務量と成績が反比例の関係になることが、正常な状態というケースが珍しくないのです。つまり、緊急対応の件数が多いということは、水道事業に異常事態が多数発生しているということです。そういうことは少なければ少ないほど、水道局の成績は良くなるわけです。異常事態が発生しないように日々、安全・安心・安定に努めることが、肝要です。異常事態が発生したら緊急対応することは当然必要ですが、だからと言って、非常に沢山の異常事態を緊急対応でうまく捌けたということは、必ずしも水道局の自慢にはならないわけです。消防車とか救急車などの出動についても、基本的には、同じことが言えます。これらは、アウトプットとアウトカムが別物であることを示す極端なケースとなります。

< 部会長 >

事務局の方、よろしいでしょうか。今のはご意見ということです。他には、ご質問とかご意見はございますでしょうか。委員お願いします。

< 委員 >

先生と同意見ですが、行政評価が自治体で行われていることはご存知だと思いますが、基本的には評価という意味ではアウトカムの評価が非常に重要な所で、その結果を受けて予算配分の見直し、事業の廃止、次期以降の予算編成へのフィードバックを行います。この資料ですと、「まだ達成していないから継続する」ということしか分かりません。多くの自治体の場合は、○× というレベルで、あとは文章的に表現するという形で評価されて予算配分の見直しに利用するというのがいいと思います。ここで、3つ質問がありまして、経営基盤の強化について、口径別分担金を資本的収入から収益的収入へ移すことの説明をお願いします。本来資本的収入の回収等であるならば資本的施設への支出になるのではないかと。改良ではなくて修繕であれば収益的施設のための収入・負担金なのですが、これを変えた論拠を教えてください。次に、これは今後委員会で検証していくと思うんですが、資料4の旧目標から新目標への移行というのを毎回審議会では議論するんですが、今回は4番が消え、3番に吸収されました。現段階で、環境の所が消えたいきさつ等を教えていただければというのが2つ目です。3つ目は、収益的収入と収益的収支についての計算書につきまして、減価償却が支出に記載されていますのでキャッシュフローの計算書ではないことは分かります。ところが水道事業におい

ではキャッシュフローが重要でして、キャッシュフロー計算書というのは作る必要はないのかどうか、以上の3点です。まとめますと、まずは口径別分担金を収益的収入に変えたいきさつ、基本目標を4つから3つにしたいきさつ、キャッシュフロー計算書は必要ないのか、あるいは今後検討した方がよいのか、その3点について質問させていただきました。

< 部会長 >

では事務局からお願いいたします。

< 事務局 >

まず1点目の、口径別負担金につきましては、水道を使用するための権利として、3条で収入しています。これによって料金改定の激変緩和策にもなっています。

< 委員 >

それは他の自治体でもそのように収益的収入で計上されているということですか。

< 事務局 >

他の自治体につきましても、3条で受けている割合が多いというところですが、次に施策体系の4から3に変更したというところですが、今回の3つに絞ったというのは厚生労働省の新水道ビジョンが3つの体系で構成されていまして、それに合わせて3つに絞ったというところですが、これまでの4環境への思いやりを無視しているわけではなく、3の供給体制の持続性の確保のところに組み入れています。それと、キャッシュフローですが、公営企業で経営している中では非常に重要でして決算書等でもキャッシュフロー計算書は添付しているところですが、そのためこの後説明いたします成行シミュレーションの中ではもちろん現金の指標なども付けさせていただいておりますので、今後は単年度収支もさることながらキャッシュについても検証はしていきたいと考えております。

< 委員 >

有難うございます。

< 部会長 >

有難うございました。質問ということで一旦切れればよろしいですか。

< 委員 >

そうですね。

< 部会長 >

分かりました。では、委員どうぞ。

< 委員 >

まず細かいお話になるかと思いますが、先ほど先生から2つ目の質問でありました資料4の基本目標についてです。現行の基本目標が4つから3つに変わる点に加え、各細かい項目も変更がみられます。例えば「広報および広聴活動の充実」という3の 3に配置されていたものが、区分1の 1の所に移動していたり、単純に1のものが1というふうに移行しているわけではないようです。何故そのように変わったのか教えてもらえればと思います。今回単純に基本目標が4つから3つに移行する形にはなっているのですが、この新たな区分の意味が少し分からなくて質問をさせていただいております。1番目の基本目標「水道水の安全の確保」と2番目の

基本目標「確実な給水の確保」はどちらかというとハード面に着目したもので、3番目の基本目標はソフト面に着目したものであると思うのですが、施設目標の「広報および広聴活動の充実」が1番目の基本目標の安全の確保という所にしか入っていません。これは他の基本目標にも関連するのではないかと思います。また、2番目の基本目標につきましては通常の状態と異常な状態という形で2つに分けて議論する必要があるとも思います。

もう一つ資料1について質問がございます。資料1に実現可能性の検討というお話がありました。先ほど数値で反映できるのかどうかというところで、数値で反映できないものは文章で記載として区分されています。そこからさらに数値で反映されず文章で記載されないのが検討対象外とみえますが、これはそうではないんですよね、何を軸として検討の対象外というんですか。この図を示すのであれば何かメルクマークがいるのではないかと思います。

あと、ここも細かいのですが「当市における実現可能性の検討」で ~ で効果はどの程度あるのか、時間はどの程度かかるのか、コストはどの程度かかるのかというところです。ここで言っている3番目のコストというのはお金ということに置き換えてよろしいでしょうか。コストには様々な考え方があり、いろんな解釈がなされる可能性があると思ひまして、このコストというのがお金ということを意味されているのかどうか確認させていただきます。

< 部会長 >

質問をまとめて、事務局はいかがでしょう。

< 事務局 >

まず1点目ですが、国の方が示しています安全の中に細かな事例がありまして、広報につきましてはおっしゃっておられますようにいろんなところに影響することですが、安全の中で水道事業の広報、情報公開が進み、住民とのコミュニケーションにより水道への安心と信頼に繋がってくると記載がありましたので、それに準じた形で当市としましても1の水道水の安全の確保のところに配置しているところです。次に資料1の記載については、もうちょっと分かりやすいような記載の方法を検討するのと、3つ目のコストについてですがお金として考えています。

< 部会長 >

分岐点の文章で記載しないと検討対象外になる理屈ですね、この前までは取り扱うという流れになっているのに文章ができないということで検討対象外にするという理屈はいかがでしょう。

< 事務局 >

これは間違いと言いますか、直させていただきます。

< 部会長 >

これはやっぱり、検討対象外の横に出るのは削除ということですね。

< 事務局 >

通常、先ほど主幹も言いましたけどコストは具体的に費用と漢字で書くようにいたします。

< 部会長 >

費用とするということです。委員、いいですか。

< 委員 >

一般的にお金をイメージするのですか。

< 事務局 >

はい。

< 委員 >

であれば問題ないのではないかと思います。

< 部会長 >

またこれは支出とは違いますよね。検討時、費用と考えるのとキャッシュの出と考えるのとはまた違いますので、ここでその議論を綿密にしなくてもいいんですけど、その辺をはっきりとしておく必要があるのかなと思います。費用ってお金が出てなくても発生するし、例えば減価償却なんてキャッシュの入りで考えたりするわけです。収支で。実現可能性っていうのに考えてのことなので費用なのか、それからコストというのは厳密にいうと支出であるということです。すなわちコストというのはお金が出ていってそれが実際に費用になるのは費消した場合で、お金が出て行って費消しなければ資産になるので、そういう出ていったことをコストと呼んでいるので、場合によっては支出になったり、場合によっては費用になったり、場合によっては費消しなければ資産として残るといった概念です。日常用語ではコストは結構費用みたいな使い方をしますが、多分委員が質問したのはコストという概念が結構多義的なので、その辺で、また費用に言い換えて本当にそうなんですかと、お金が実際に入ってくるのと出ていってというその支出のことではないんですかということだったと思います。実現可能性の検討は、今日ここで部会審議して、後でシミュレーションのご説明と審議をして、必要な資料とかそういったところでもう一度考えなければならぬところだと思いますので、現時点では問題提起ということで承っておこうと思います。

< 委員 >

はい。

< 部会長 >

多分、費用ということで納得しておこうと思います。それでは改めてご質問やご意見お聞きします。特に資料4についてはもう一度改めて委員の方々にお目通し願って、この右側の枠の中ですね、これが次期水道ビジョンの原案になってきますので、このあたりのご意見を今日伺っておいて次回の部会に備えることが必要ですので、よろしくお願いします。委員どうぞ。

< 委員 >

細かい質問ですが、資料2 - 1の数字を拝見しますと、給水世帯数以外の数字は減少していて、給水世帯数は微増しているという結果が出ています。素朴な疑問として、こうした数字の算出の前提はどういうものかということです。次は資料2 - 2です。「収入」の部の「退職給付引当金取崩額等」で、これは平成28年から3年連続して計上されています。素朴に解釈すると、退職金の支払いが3年連続してあったということでしょうか。もしそうだとすると、取崩に見合う組入れを行わないと、将来、退職金を遅滞なく払い続けることが出来なくなります。「支出」の部を見ると、退職給付引当金の取崩しに見合う繰入れは行われていないようですが、大丈夫でしょ

うか。三つ目は同じく資料2 - 2の差引損益です。これは企業会計でいう純損益に相当する数字だと思います。計画では平成26年から5年連続して赤字が見込まれていますが、実績では26年は赤字ですけど27年以降は4年連続して黒字が並んでいます。どうしてかなと思って数字を追ってみますと、一つは先ほどの資料の説明にございました収入サイドで毎年2億円前後の長期前受金戻入があったというのが1つです。次に支出の方を見ますと、計画ですと毎年4億円を超える人件費が見込まれていたところ、実績では3億円台の数字で収まっています。つまり、収入の方で長期前受金戻入が大きくプラス、支出の方では人件費が大きくマイナスということで、差引損益が赤字の見込みが黒字に転換したと考えられます。そのような解釈でよろしいでしょうか。この問題のポイントは、これが今後の収支にどう影響するのか、それが水道ビジョンとか経営戦略に繋がっていく要因になるのか、それとも一時的な要因なのかということです。

< 部会長 >

おそらく一番最後のご質問は次の成行シミュレーションのところでご説明いただきたいと思いますので、三つの疑問点は今お答えいただいて、後でまた成行シミュレーションのところでの疑問点を踏まえて少し説明に付加していただければと思います。最初の三つのご質問に対するご回答はいかがでしょうか。

< 事務局 >

前提条件ですが、この計画につきましては平成20年度に作った計画でございましてその当時の人口は減少するが世帯数は増加していこうという見込みの中で作った計画になっています。

二つ目の資料2 - 2の退職給付引当金ですが、川西市におきましては退職手当組合に加入しており直接、退職に伴う退職金の支出はございませんが、退職組合に入っているにもかかわらず引当なければならないので、当該年度における職員に対する退職手当の要支給額を計上しています。平成26年度から地方公営企業法の改正で引当てることになりましたので支出の方にあります上から四つ目の「退職給付費」これが繰入額になります。平成26・27年度につきましては少ないですけど100万円、500万円をそれぞれ引当金に計上しています。平成28年度以降につきましては団塊の世代などで大量に退職されていったのと、最近若い職員を採用した影響で戻入益となっております。

三つ目の人件費が下がっているというところですが、人事異動や退職に伴う入れ替えとして若い職員を採用しておりますので人件費が減っているということですが、この傾向が続くかどうかは、不明瞭ではあると思っています。

< 部会長 >

よろしいでしょうか。他には、何かご質問はございませんか。委員お願いします。

< 委員 >

兵庫県から譲り受けたということですが、それについて支出が、この資料からは金額がゼロになっていますので何ら支出が発生していないことになっています。何らかの費用を要したの

か、そこを詳しく教えていただければと思います。かなり大きな金額になるのが気になりました。

<事務局>

資料2 - 4の2枚目にある下から二番目の茶色の小計の上のところに「水運用体制の確立」の横に「兵庫県用水供給事業の施設購入」と書いております。後期から三つの配水池を買う計画でして実際には平成27年度には5千9百万円、平成28年度には2億5千8百万円、平成29年度には5千万円を合わせました3億6千7百万円で配水池を購入しております。

<委員>

資本的支出になるわけですか。

<事務局>

そのとおりです。

<部会長>

よろしいですか。

<委員>

はい。

<部会長>

外にはよろしいですか。委員。

<委員>

資料2 - 1についてです。前回の経営審議会にてお話がありましたように世帯数が上がっているにも関わらず人口が減っているということで、基本人口減ということがマイナスな点だということでしたが世帯数が増えているということはプラスな点であると考えすることはできませんでしょうか。世帯数が増えればその分だけ基本料金が一定額はいるのでその分だけは、一人で使っても給水収益が結構上がっていくのではないかと思います。その点について教えていただければと思います。

<部会長>

今のは、事務局はいかがでしょうか。

<事務局>

おっしゃるように世帯数が増えますと基本料金が増えてまいります。そこだけ見ますとプラスではあるんですけど、世帯が分かれることで川西市の料金単位が累進になっています。その高い部分が分割されて安い分布の状況になりますので事業全体としてみた場合はそちらの減の方が影響として大きいので、傾向としては給水収益が右片下がりになっていく、そういう状況になります。

<部会長>

それは数字的に本当にそうですか。給水人口減よりも、給水収益は減ってないように見えるので、多分委員の質問は、世帯数の増がそれに寄与してるんじゃないかという質問だったと思います。今の話が本当だとすると給水人口減以上に給水収益は減るという理屈になるんですけど。あるいは給水人口減通りに減るのかなど。数値的には私のイメージでは給水人口減ほ

どには給水収益は減っていないから世帯数増がカバーしているというふうに理解したので、委員はその質問をしたと思うのですが。この辺りは本当に相当なシミュレーション、多分今日は用意していただいている正確な資料は無いと思いますので、これは是非ですね、今後具体的なシミュレーションでご用意いただくのがいいかなと思います。

< 委員 >

私が答える立場ではないのですが、この点においては、まさに分担金の存在が大きいと思います。世帯数が増えますと引込線というんでしょうか、本管から各世帯の蛇口に水を流し込む水道管を設置しなくてはなりません。それが分担金収入という形で発生します。

< 部会長 >

なるほど、事務局の説明と分担金と合わせ技で、影響がプラスになる。事務局の説明はそれはそれで料金体系的にはそうかなとも思われます。この辺りを含めて、今日はその資料はご用意していただいているので、また次回の部会までには是非、成行シミュレーションのところでもよろしくお願いします。

他には何かございますでしょうか。特に、資料4のこれが審議会に向けての原案提示のところになりますので、何か合わせてご質問等ありますでしょうか。委員のご示唆で1番の安全はわりと経営上の、2番は緊急と経常的が合わさっている、あるいは経常的なんだけどその緊急に対応するところに対象があるとも見えます。この三つの切り口を多分具体的な施策の一番右端の厚労省の例示をまとめていただいた部分でしょうかね。

< 事務局 >

そのとおりです。

< 部会長 >

例示をまとめていただいているのだけれど、川西市としてはこれを踏まえて独自に新水道ビジョンを作っていかなければならないので、これをどうとらえるかというのをやはり検討していく必要があると思います。例えば資産があったのは、1番が経常的、2番が経常的なのと緊急対応が混じっている、私の意見では緊急に対応する経常が入っているというのが2番で、3番は供給体制の持続性なので従前は広報的なところに川西市は入れていましたけれど、広報は多分厚労省は安全性というところのアピールだということに焦点を絞ってしまって1に移したみたいな、なにか概念整理といいますか、区画の意味といいますか、その辺をきちんとしていく必要があると思います。これも多分今すぐにはちょっとできなくて次回部会できちんと検討しないといけないと思います。部会長としまして、これまでの成行シミュレーションの手前まで委員の出た意見をまとめるというところで今ちょっと申し上げているのですが、やはり資料4の区画分けのそれぞれの意味といったところをご提示いただいて、部会委員の方でも一緒に議論できるようにしていただければと思います。それと、ついでにまとめといえば委員からかなりありました検証のところですが、今継続となっているのですが、資料1の、これは実現可能性の検討のための流れ図ですが、従前の目標値がない場合について、文章的に考えた検証結果を示すといったような、その方策でこれまでの分の検証結果をお示しいただければよいと思います。そ

れがおそらく次回のビジョンの基になろうかと思しますので、今日出た意見でおそらく2点がこの資料4までの範囲内で特にあったことかなと思います。漏れているのがありますかね。

< 委員 >

資料4に関連して一つ確認なんですけども、私が聞き落としているか誤解しているかの可能性があるのではご指摘ください。厚労省の水道ビジョンが枠になっていますよね。

< 事務局 >

そのとおりです。

< 委員 >

先日の委員会の時にも話が出たんですが、厚労省の水道ビジョンが一つあって、それにもう一つ総務省の経営戦略がかぶさってきますが、今回の審議会では、それらをバラバラに審議するのではなくて、一体のものとして審議するというございました。そうすると資料4の右側の新しいくりは、水道ビジョンと経営戦略を一体化した建付けになっているという理解でよろしいでしょうか。このくりで経営戦略の方も対応できるとのことですね。

< 事務局 >

そう理解をしています。

< 委員 >

確認です。

< 部会長 >

おそらく資料4の枠組みに経営戦略を足すんですね。原案は。

< 事務局 >

そうですね。ビジョンが基本的には考え方が書いてあるんです。何々をします、というのがありますが今までは「ただします」だけであってその裏付けになる財政的なものがないと、それを一つのものにするために章立ちはまたご相談しますが章立ちの一つのところにシミュレーションといわれる財政計画というものが入ってくるという意味です。

< 部会長 >

これはこの次のご説明の資料5に基づくところで示していただくということですね。

< 事務局 >

そうです。

< 部会長 >

今委員がご質問なされたところは次の説明のところでは少し出てまいりますので、これまでの範囲内のところではよろしいでしょうか。はい。それでは次回部会に検討する材料をよろしく願います。

[2. 成行財政シミュレーションについて]

事務局(成行財政シミュレーションについて説明)

< 部会長 >

それでは、資料5に基づきまして「成行財務シミュレーションについて」を議題としたいと思います。事務局の方からご説明をお願いします。

< 事務局 >

資料5に基づき説明。

< 部会長 >

今回の議論は成行シミュレーションについて、特に資料5 - 2、それをグラフ化した次のページの資料かと思いますが、これに関して何かご意見はございますでしょうか。

委員からご質問が出る前に、言葉でおっしゃっていた市総合計画における人口ビジョンの推計人口というのは本市において将来人口推計になるということの数字で、本市としてはいろんなことに使っていくべき数字ということですか。この数字を離れて水道局だけで勝手に予測するということは多分できない数字ですよ。

< 事務局 >

その通りでございます。

< 部会長 >

人口推移はそれに基づくと、それも仮定に基づいているので、いろいろ検討の余地があると思いますが、市として持っている数字なので局はそれに従ってこの成行財務シミュレーションをたてられた。先ほど少し議論のあった給水人口は減っていくけれども世帯数が増えるというのは微妙に影響してくるんですが、それはこのシミュレーションでは考慮してはいないですね。なので資料5 - 2に関してご意見をいただければと思います。

< 委員 >

資料5 - 2で、平成40年度までの財務シミュレーションをしていただいています。これによると、31年度から差引損益が赤字に転落し、それが40年度まで続くという見立てです。その間の累積欠損金は14億円に達します。水道局全体の収支では、さらにこれに、資本的収支の累積赤字が加算されることとなります。それを足すと、どれくらいになるんでしょうか。すごい数字になりそうですね。資本的収支は現在でさえずっと赤字です。収益的収支が黒字の間は、その赤字をキャッシュ的には収益的収支の黒字でカバーして、何とかなっているわけですけど、平成31年度からは収益的収支まで赤字に転落するため、資本的収支の赤字まで面倒みてあげられないという状況に陥るわけです。トータルでどれくらいの累積赤字になりますか。

< 事務局 >

計算させてください。

< 委員 >

以上が数字に関する質問です。数字が明らかになれば、それにどう具体的に対応するかを、審議することになります。

< 部会長 >

意見の前にこの表の見方の確認ですけど、損益計算書、収益的収支のプラスでもって資本的収支の差額を補填するという会計になると理解していいでしょうか。

<事務局>

そのとおりです。

<部会長>

表の見方として例えば2018年だと18億の収支プラスがあって最終的に未処分利益剰余金で考えたら良いのですか。

<事務局>

そのとおりです。

<部会長>

そうすると単年度の差引損益は2018年度は1億円ということです。いずれにしてもここから下の2018年度の資本的収支のマイナスを毎年のように補填するという仕組みで、収益的収支が赤になってそこからずっと赤だといわばずっと補填できない状態が続くとそのように理解したらいいのでしょうか。基本的には。

<事務局>

そのとおりです。

<部会長>

それが起きるのがいつからですか。もう来年単年度が赤になった時からそれが起き始めるって考えたらいいですか。

<事務局>

31年度から単年度赤字で未処分利益を取崩すこととなります。そのため32年度までは持たないという状況になります。

<部会長>

そういうふうに見たらいいということですね。

<事務局>

そのとおりです。

<部会長>

もう剰余金レベルでもマイナスになったらもうとても補填なんかできないということですよ。私が何で質問しているかということ、市民の方にこの数字を説明するかということで多分単年度赤になった時には「もうむこうに回せませんよ」というのは分かりやすいと思うのでそれがいつ起きてそれがずっと後マイナスになるとどんどんそれが増えて、例えば10年後、委員が言っておられる累積全部足した数字を示すといかに大変な状況か説明できるかなと思ったのです。事務局でそれを計算していただいている間に他の委員からはいいですか。

<委員>

そうしましたら、この未処分の利益の剰余金の取り崩し額というのは、これを資本的収入に補填するという処理ではないのですか。

<部会長>

収支差額にかな。収入に入れるのではなくて、多分。

< 委員 >

差額に入れるとか。

< 部会長 >

差額の赤を補填するのかな。

< 委員 >

ということは、この資本的収入支出の表には、補填金がいくらかというのは出てこないのですか。

< 事務局 >

記載していません。

< 委員 >

未処分利益剰余金が減っていったのは、基本的には、資本的支出のために補填されたということですか。

< 事務局 >

実際にはそうですけれど、この表では補填していない表記になっています。

< 部会長 >

実際にはそうであるとすれば、その辺りの流れを分かりやすく市民がいる審議会にはお示しいただくのがいいですね。分かっておられる方や我々は聞いて分かりますけど市民委員はちょっとその辺は分かりにくいかなと思います。

< 委員 >

前回市民委員から、資料が分かりにくいというお叱りを受けました。しかし、本日頂戴した資料は、お叱りがあった第1回の審議会の資料に比べると、さらに一段と分かりにくいものになっています。資料を理解するには、相当な専門的知識が必要です。もうちょっと数字を丸めて簡略化するなど、素人の方が見ても分かるように、見せ方を工夫された方がよいのではないのでしょうか。それはそれとして、私としては、キャッシュがどのように動いているかを知りたいと思っています。発生主義の数字とキャッシュベースの数字を、常に照らし合わせて見ていかないと、経営の実態は見えません。

< 部会長 >

今資料の整理は難しいと思いますので、一つ次回部会までによろしくお願いします。

< 委員 >

あと一点、減価償却費を見ていきますと、金額はかなり大きなものです。そういう意味で、キャッシュ・ベースでいうと、余裕があるのかなという感じがします。ところが、次のページのところで、現預金残高は将来大きくマイナスになっており、なぜこういう形になるのか。キャッシュ・ベースで見ると、減価償却が多いのでプラスになるのではと思いますが、その分を超えて資本収支に移転されているということですか。

< 事務局 >

資本的支出の改良工事の方を見ていただくと、30年度には減価償却並みの5億6千万円ぐらいの工事だったんですけど31年度になりますと11億円という倍ほどの事業を行わなければ

ならないという計画になっておりますのでキャッシュの方の減りも激しくなっているという状況にはなりません。

< 部会長 >

これが何年目ぐらいですか、一気に来ているのが。

< 事務局 >

法定耐用年数に応じて計算しており、管でしたら40年、配水池でしたら60年というシミュレーションになっています。そのため31年度からその影響が出ています。

< 部会長 >

ということは取得日からの年でこれはシミュレートされている。

< 事務局 >

そのとおりです。

< 部会長 >

だいたい実際の工事の必要性は取得日からの年で決まるものですか。それとも現場は違いますか。

< 事務局 >

実際には経過年数を参考にして、現場で判断しています。

< 部会長 >

シミュレートは買ってからの年で計算しているが、現実の工事費支出は違う可能性があるということですね。

< 事務局 >

そのとおりです。

< 部会長 >

だからまさに成行シミュレーションという言葉が使われているんだと思うのですが、我々一応ここに委員としていてご意見申し上げるのが役割ですので、だとしたらシミュレーションは実際に近い方ではいかがでしょう。それは相当難しいんですか。

< 事務局 >

今回は、法定耐用年数に応じて、このままいけばという成行シミュレーション状況を示していて、今後は改善策の中でアセットマネジメント計画を示していきたいと考えています。

< 部会長 >

アセットマネジメントはどちらかの、特に総務省かな、ああいうところでは全然触れられていない方法ですか。

< 事務局 >

厚生労働省が示されています。

< 部会長 >

だからいわゆる本市のビジョンをするときに指示している省が示唆している方法だとしたら、シミュレーションはそれに基づいてすることは合理性がありますね。

<事務局>

そのとおりです。

<部会長>

ということは、この成行はそっちに変わる可能性がある。もし変わったとして大まかに言って費用額支出は減るんですか、増えるんですか。それは分からないですか。

<事務局>

アセットマネジメント計画は経営戦略を策定するために作成しています。そのため経営が継続できるように作っていますので、費用については多少の上下はありますがなるべく事業費が平準化するような形で推移するように計画は作っております。

<部会長>

では、単純年数であるこの成行よりもここが減るので累積赤字というかこの赤が減る可能性はある。というか減るような経営戦略を立てるので減るということですか。

<委員>

そうしないと破綻ですよ。

<部会長>

破綻ですからね。こっちはそれでいいです。さっきの方です。総合計画人口なのでこれは触れない。市の中でいろんなことをやる場合は、さっき議論のあった世帯数が増えてというところの後年まで含めて市が示している人口減と同じだけの変化なのか、それよりも収益は減るのか、それよりも収益の減り方は穏やかなのかといった辺りはどうなんでしょうか。これまでの傾向からして。

<事務局>

今の人口と実際の人口と比較しますとかなりの乖離がありまして計画の方が厳し目に見えますので、人口のところを今後の改善策の中で検討していきたいと考えています。市の計画でいくとなかなか改善策だけでは計画がたてれないので実態に則したところでの検討もしていただきたいとは思っています。

<部会長>

ただあの予測の方ですよ、それはあんまりいじれないということはないですか。今違うよ、去年出した数字、今違うよというところは今の数字に合わせれるけど大きな傾向がこうだということ局の方で違う数字にしにくくないですか。人口の推移そのものです。

<事務局>

基本的には市の人口ビジョンの傾向には沿った形にはしていきたいですけど、かなり収入の方が落ち込むような見通しになることが想定されますので、財政収支がたてにくくなると思います。

<部会長>

そこはさっきご質問で議論になった実際人口減と平行なのかそれよりも低いのかそれよりも高いのかということです。これまでの数字を見ると人口減ほどには収益が減っていないように見えるのでもしそれに何らかの理屈があるのなら、委員が言った理屈はちょっと現場で

は違うというお話だったので、何か理屈があるのなら人口の方を触らずに収益の方そんなに激減しないシミュレートもできるのではないかなと思うのですが、その辺りは実際ものを踏まえてここから先をどう考えるかというのをお示しいただくというのが必要かなと思います。そっちの方が市で考えている人口推移をいじるよりは局としてやれるシミュレートではないかなという気がしますがいかがでしょうか。

<事務局>

先ほどの給水収益の推移というところで、具体的に資料2 - 2のところの説明させていただきますと28年度と29年度の途中までは生活保護減免、以前に経営審議会で答申をいただきましたけれどそちらの方が適用があった方が29年度の6期ある内の第2期から減免がなくなりまして上下水道料金をいただくことになりました。その辺の影響が先ほど説明させていただきました人口の動きと29年度の数字の中に生活保護減免の影響をおおむね28年度との差が差引しますと1千5百万円ほど収益に影響を与えているというような状況になってきますのでこの見た目上その増加分が溶け込んでいますので収益が落ちていないような見え方になっているような状況になっています。

<部会長>

なるほど。ではやっぱり理屈通り人口減は給水収益減ほぼパラレルということですか、あるいはパラレル以下ということですか。人口の減る度合いよりも今のご説明いただいた理屈だと人口減よりもさらに収益は減るといふ。

<事務局>

具体的にこの落ち方の傾斜と給水収益の傾斜は実際に正確に比較しておりませんので傾きがどちらが激しいのかというのは今の段階ではできないんですけども。

<部会長>

それは是非次回部会までにご検討いただきまして、人口予測を厳し目でないようにするということがもし出来るのであるならば、それはそれですけど、多分ビジョンは最終的に議会までいきますよね。人口減のその推移を局の方でというのは何か難しいような気がしたので、その人口減を前提に給水収益はこういう理屈でこんなに減らないというのがあればすごく説明としていいと思いますし、逆にそれ実際にやってみたら人口減よりももっと減るといったら調べたら余計にひどくなるんですけど、その辺り多分人口と給水収益の関係はしっかり押さえておく必要があるのではないかと思います。支出の方はどうやら先ほどご説明のあった経営戦略に基づいてアセットマネジメントの仕組みで考えられるということだから、耐用年数の単純な成行よりは支出は配慮できるということであればそのところは考慮できるかなと思いました。委員の先生方がいかがでしょうか。今、資料5 - 2のところでご議論いただいているところですけど、これをこのまま出すのかという話で少し大変な数字ですのでご意見いただいてこういう資料があったらもう少し議論できるのではないかと、こういう資料があったら別の見方ができるのではないかとというようなご意見いただくと一番ありがたいです。いかがでしょうか。

< 委員 >

31年度から単年度赤字が発生する見込みですが、その理由をざっと洗い出してみました。一般に、人口動態というマクロ経済的要因の影響を受け、かつ利用者の経済事情の影響も受ける収益より、企業サイドの裁量で執行できる営業費用の方が、相対的に客観的に見積もることができます。そういう観点から営業費用の動きを追ってみますと、これは微妙に上がり下がりするわけですが、今後40年までどの項目も微増の傾向を示しています。それに対して、収入の方は、部会長がその点についてコメントされていたんですけどやはり、給水収益の動向が一番大きい要因となっています。他方、分担金は、30年度から40年度まで固定されています。これは相当楽観的な見通しのような気がします。ワンルームマンションの新築がずーっとコンスタントに10年間続くという前提です。それから他会計補助金(3条)、これは市の裁量で決まってくるので、分担金よりは客観性が高いのかなと思うんですけども、これもずーっと数字としては11年間固定されています。ざっくり言うと、費用の方はほぼ現状維持、微増の傾向です。ところが、収益の方は、こまごました項目については多少増収にはなるけれど、40年度までほぼコンスタントで、大きく減るのは給水収益です。そういうシミュレーションをされているなという感想を持ちました。そのうえで申し上げるんですけど、足元の具体論は、だいたい3年を目途に考えていくことになります。それ以上先のことを具体論として議論することは、変化の激しい今日、不可能と言えます。これは、民間企業でも同じです。つまり、超長期の財務シミュレーションとそれへの対応策は一方で持ちながら、それをベースに、具体的な施策については3年のスパンで立案していくということになるということです。

ところで、資料5 - 2の2枚目の折れ線グラフなんですけど、一つ分からない部分があります。この折れ線は、現金預金の残高を示していると思いますが、その残高がマイナスというのが理解できません。現金に限らず、資産のマイナス残高というものは、現実世界には存在しません。資産は、最低でもゼロです。これってどういう事なんですか。

< 事務局 >

資金が不足していることを表しているというか、分かりやすく示しています。

< 委員 >

しかし、その不足分を補填するお金をどこから持ってくるかが、示されていませんね。お金のマイナスは何らかの形で埋めないと、経済活動が回って行かなくなります。

< 事務局 >

このシミュレーションの中では資金不足になっています。

< 委員 >

どっかからお金を持ってくるという想定ですね。

< 部会長 >

持ってこないといけないのを示すと。

< 事務局 >

新たな資金調達が必要になるということです。

< 委員 >

そういうことですね。資料5-2のシミュレーションが実態を反映したものであれば、そうした実情を市民の皆さんに分かりやすくお示した方がいいのかもしれませんが。企業会計的にいえば、35年で資金が底をつき、不渡り手形を出す状態になります。民間の企業であれば、そこで倒産です。そういう状況だというのは、市民の皆さんに言う必要があると思います。

< 部会長 >

了解です。他には何か。会長の意見は、まずこれはいったん示す。おそらくこれからどう局の方で対応するという条件を入れたり、こういうふうにしますという事をいったり、あと費用の削減ってというのがあります。費用の削減を何か考える、もう削減の余地はゼロですか。それはありうるとして、次回部会までをお願いという事なので、従来から議論になっている委託問題です。ただ、本局ではかなり熟練職員を局内できちんと育成するという思想があると我々よく聞いていたので、あまり外部に委託しないという方向性をうかがっていましたがその辺りもご検討の資料があればいいかなと思います。検討したうえで無理だったら無理ですし、他市と比べたりという資料があればいいのかなと思います。ですので今出た意見をまとめてこの成行シミュレーションに関しては、人口動態の厳しさの検討も含めてしていただいたらいいかなと思います。それをもし前提としたら給水人口と給水収益の変化って同じなのか違うのか、違うとしたら違う理屈があって、その劇的な減りはちょっと緩和される。それから費用項目でご検討していただく部分、それからなんといってもアセットマネジメントという劇的に単純耐用年数の方法と違ってするのでこれを組み込んだ時にどうなるのかということですね。その成行シミュレーションはまさに経営戦略に基づいた財務計画なのでそれでお考えになるのが多分、経営戦略に基づいた財務シミュレーションということになると思います。その辺の資料を次回部会までにご用意していただくことと、あと市民に向けて分かりやすく示すという何かの工夫が必要かと思います。確かにこれを委員の意見が出るまでは成行シミュレーションじゃなくていきなり経営戦略を思っていたんですけど、これ一枚出ること確かに意味があるのかなと思いますので、一応これと出して経営戦略と財務計画を出して最終的には市民委員の方に審議会の方にどう出すか検討したらいいと思います。その辺りについて何か意見ございますでしょうか。事務局の方から何か言っていたことはありますか。

< 事務局 >

宿題いただいた、資本的収支の収支不足額合計額ですが187億7千8百万円、これはあくまでも25年から40年までのものを足した187億7千8百万円です。

< 部会長 >

かなりの金額です。これは耐用年数による更新です。この辺りも総務省から言っているのは経営戦略というキーワードが入っているので、それをどう考えるのかということも重要かと思えます。次回部会までに、各部会委員が持ち帰って熟読した後に、質問があった場合、各自がメールを事務局にお送りしたらいいですか。

< 事務局 >

はい。お願いいたします。

< 部会長 >

それは他のメンバーにも見えるようにして何かご意見なり、こういう資料があった方が検討しやすいといったようなことも事務局の方にご提出していただければと思います。他の委員にも見えるようにしていただければ重複は避けられると思いますので、その辺りよろしいでしょうか。事務局の方からはよろしいでしょうか。

【3. 次期開催日時について】

事務局(次期開催日時について説明)

< 部会長 >

続きまして、3番目の「次期開催日時について」を議題といたします。事務局の方から説明をお願いします。

< 事務局 >

次期開催日時について説明。

< 部会長 >

それではそのように開催します。委員の方よろしくをお願いします。最後に何かご意見ご発言あれば、よろしいでしょうか。はい、今日は資料見ての意見をたくさん申し上げましたけどどうぞよろしく事務局の方でご準備いただきまして次回部会までよろしくをお願いします。それでは本日は以上で閉会いたします。皆さんはどうもお疲れさまでした、ながきにわたってありがとうございました。